

八大学工学系連合会公開シンポジウム
2025年3月28日（金）

D & I推進に向けた女子枠入試の導入 -東京科学大学の事例-



井村 順一

東京科学大学 理事（総合戦略担当）

1. 女子枠入試の概要
2. 女子枠入試導入の経緯
3. 女子枠入試に対する反応と対応

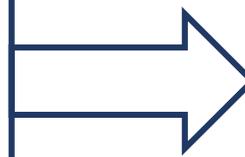
東工大は、2024年4月入学の入試から、「女子枠」を導入します

2024年度入試から2025年度入試にかけて、
総合型選抜・学校推薦型選抜に
合計143人の女子枠を導入

入学者の女子比率

現在

学士課程全体で約13%



導入後（見込み）

学院それぞれで20%以上

※2024年7月に149名に増員

学士課程女子枠入試の導入計画

最新版

女子枠を総合型・学校推薦型選抜に導入

一般選抜（前期日程）

- 共通テスト＋個別学力検査（全学共通の筆記試験）に重心をおいた選抜
- 数学、物理、化学、英語

総合型・学校推薦型

- 多様性を重視した選抜
- 個別学力検査、面接、調査書
- 受験者の意欲、創造性を重視

2023年4月入学の
ための入試まで



2024年4月入学の
ための入試



2025年4月入学の
ための入試から



一般枠＋女子枠
10%→24%

一般枠

女子枠

※ 2024年度入試より情報理工学院の収容定員の増加により募集人数が1028名から1068名となります

※ 女子枠が143名から149名に増加します

学院ごとの募集人員

 : 一般枠と女子枠の併願可。両枠とも合格時は女子枠として合格。

 : 一般枠と女子枠の併願不可。

総合型・学校推薦型選抜では選考の結果、合格者数が募集人員に満たない場合は、その欠員を一般選抜（前期日程）の募集人員に追加

学院		2023年 4月入学 変更前	2024年4月入学			2025年 4月入学以降	
			変更前 一般枠*	一般枠	女子枠	一般枠	女子枠
一般選抜 (前期日程)	全学院	930人	892人			813人	
総合型選抜	理学院(151)					8人	15人
	工学院(358)	34人	34人			17人	70人
	物質理工学院 (183)	18人		20人	20人	20人	20人
	情報理工学院 (132)	6人程度		6人	14人	6人	20人
	生命理工学院 (150)	15人		15人		15人	
	環境・社会理工学院 (134)	17人		20人	9人	20人	9人
学校推薦型選抜	理学院	8人	8人				
	生命理工学院			15人	15人	15人	15人
	合計	98人	118人	58人		101人	149人

※ 2024年4月入学の工学院の総合型選抜と理学院の学校推薦型選抜は2023年4月入学と同じ選抜。

新設した女子枠のポイント

1. 女性（戸籍上）が対象
2. 提出する出願書類など新たな評価軸を追加
3. 女子枠の数や選抜方法は学院ごとに異なる
4. 女子枠と一般枠を必ず併設
5. 女子枠と一般枠の併願が可能な学院がある
→両方合格の場合は女子枠での合格
6. 基礎学力が基準に達している志願者が募集人員に満たなければ、合格者は募集人員より少なくなる
→不足分は前期日程の枠に追加

1. 女子枠入試の概要
2. 女子枠入試導入の経緯
3. 女子枠入試に対する反応と対応

導入までの取組み

東工大Commitment 2018

- 多様性と寛容
- 協調と挑戦
- 決断と実行

東工大Action Plan 2018-2023

1. 創造性を育む多様化の推進
2. Student-centered learningの推進
3. 飛躍的な研究推進で社会に貢献
4. 経営基盤の強化と運営・経営の効率化

- 過去30年の日本の経済の停滞を振り返る
- イノベーションで世界を牽引できていない
- その一つの原因として、D&Iの遅れ

ダイバーシティ&インクルージョン推進宣言 2022年1月



多様性の認識



Team 東工大



人材育成

東工大アクションプラン2018-2023

ツイート



挑み続け、未来を創る東工大

東工大が掲げた長期目標「世界最高の理工系総合大学の実現」に向け、2017年には東工大に集う我々が何者かを表す「東工大ステートメント (Tokyo Tech 2030)」を、2018年には世界に伍していくために如何に取り組むかを示した「東工大コミットメント2018」を発表しました。

その実現のために、学内での対話を繰り返しながら、より具体的な取り組みをまとめたのが「東工大アクションプラン2018-2023」です。

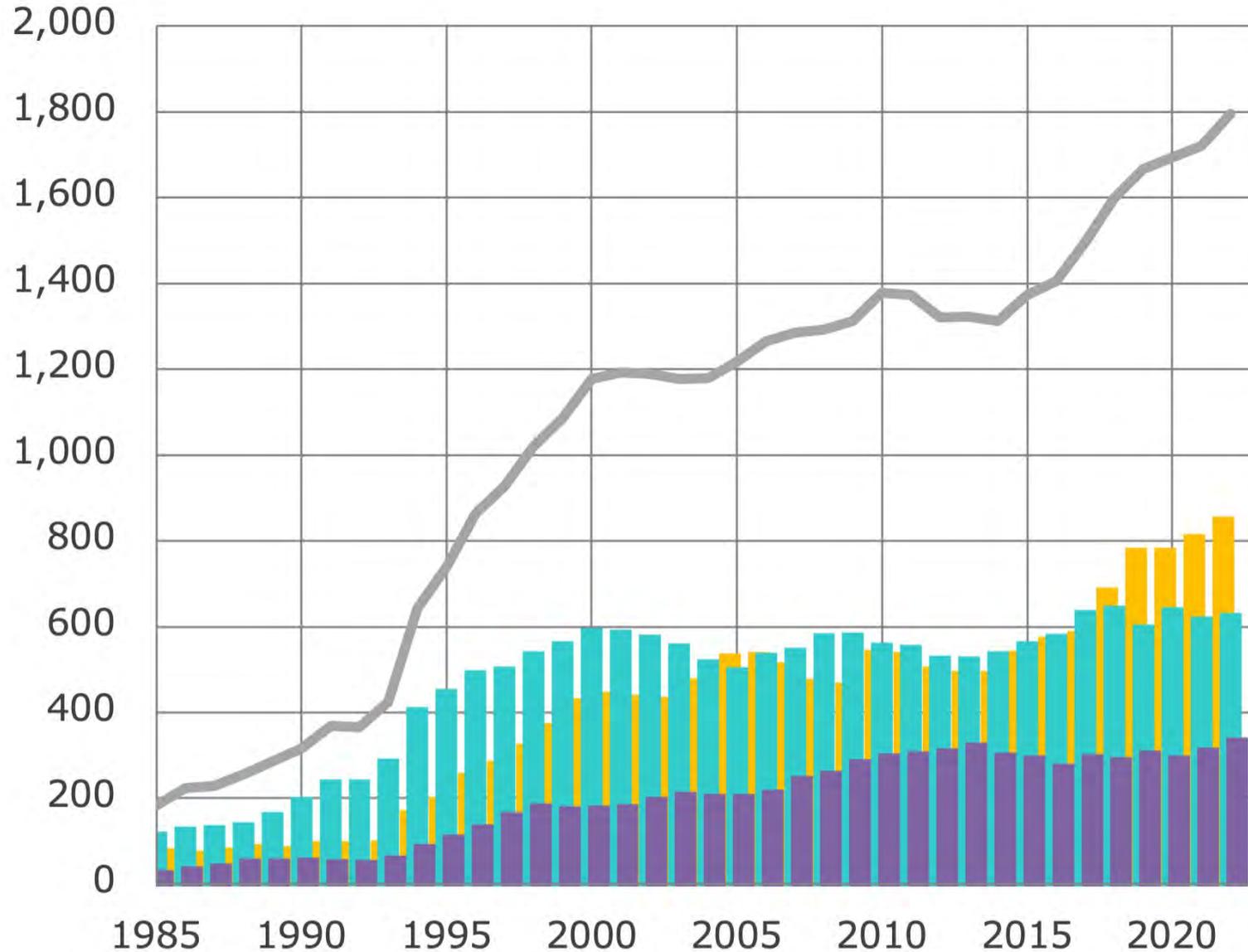
教職員、学生、同窓生が一丸となり「Team 東工大」として実行 (Action!) していきます。

東京工業大学学長

- 2019年～2020年女子学生の入試と成績における現状分析
- 受験生・保護者向けのイベント、説明会（2021年度実績）
 - 高校生・受験生のためのオープンキャンパス オンライン
 - **一日東工大生**（女子高校生向けイベント）約170名
 - 保護者向け説明会、高校教員向け説明会
 - 高校3年生・受験生向け オンライン学院・入試説明会
 - 女性活躍応援フォーラム、東京都フォーラム
 - 高校生向け個別相談会：4～5月、8月、11月～12月
 - スタディツアー
 - 上記以外にも、高校での出張講義、大学説明会高校訪問、地方高校訪問、大学合同説明会など、その他、学院による取り組みも多数実施
- 在学生のための相談窓口、環境整備

東工大の女子学生数の推移

(人)



全体
17.1%

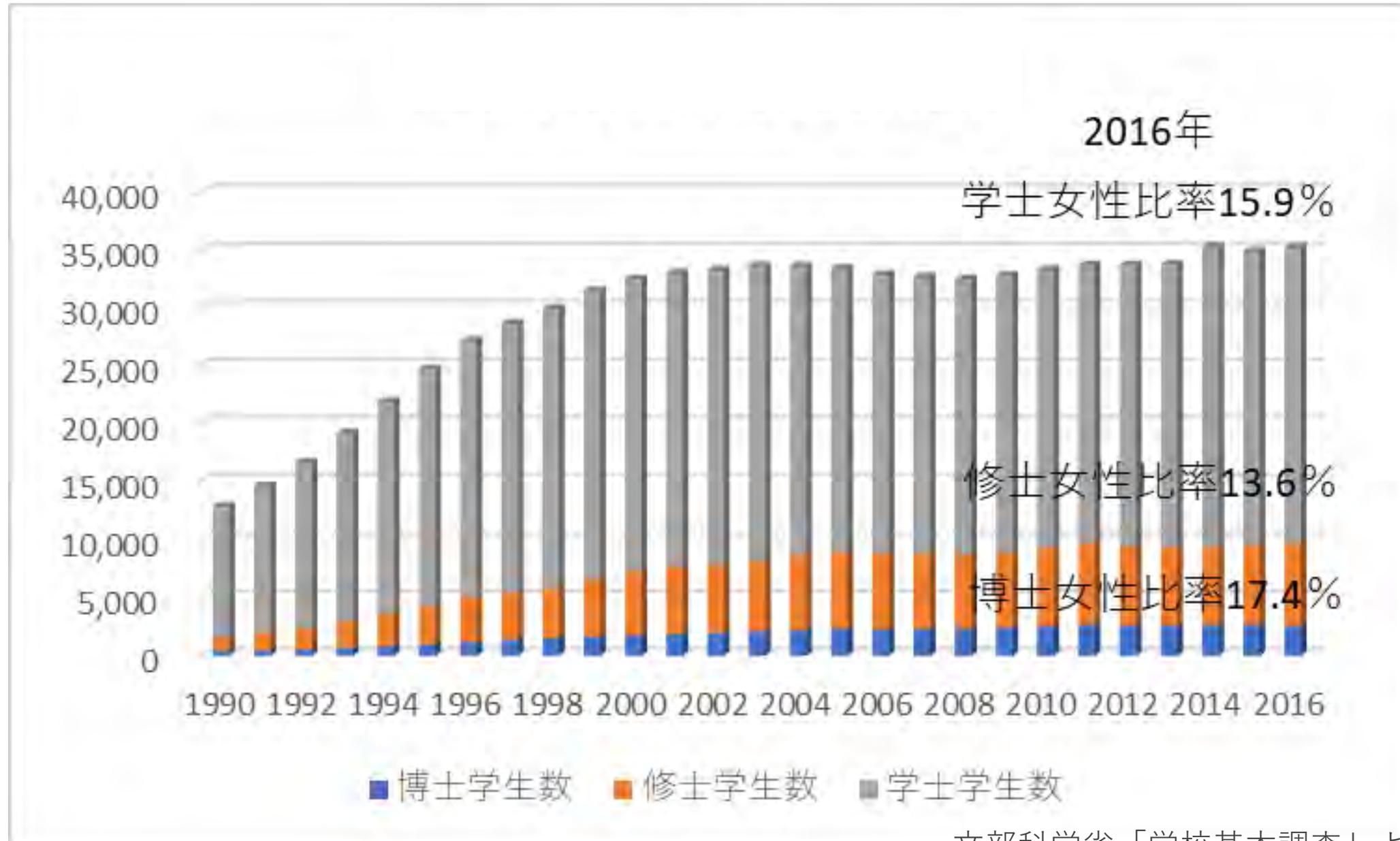
留学生・社会人学生を含む
各年度5月1日現在

修士課程 20.4%

学士課程 12.9%

博士後期課程 20.8%

国立大学理工系の女子学生数の推移



世界の理工系大学との女子学生比率の比較

	MIT	Georgia Tech ^{a)}	Cal Tech	ETH Zurich	Imperial College London	Tokyo Tech	日本の大学 (理・工・農) ^{b)}
学士課程	48%	40%	45%	34%	40%	13%	22%
大学院課程	39%	26%	35%	33%	44%	21%	18%
学生全体	40% ^{c)}	33% ^{c)}	37% ^{c)}	33% ^{c)}	40% ^{c)}	17%	---

2020-2022年数値

a) 新入生の比率, b) 令和3年学校基本調査より, c) THE世界大学ランキング2023より

- 現在18歳の学生は2050年に40代
→社会活動を推進する中心
- 今、増やさないと2050年に
間に合わない

益学長の決断 2022年に入り

- **ポジティブアクションの導入**
- 理系女子学生を増やすことの
重要性を強く発信

東工大としての覚悟

益 一哉

現状の文理で分けられる大学受験に始まり、大学、大学院、さらには産業界に至るまで、理工系や情報分野における女性活躍の場が広がらないことに大きな危機感を感じ、これを是正することが、日本を代表する理工系総合大学である東工大の使命であると認識する。

日本におけるSTEM分野の女性の学生や教職員の活躍の場を劇的に拡大することを目的に、本学は他大学に先駆けて入試制度や人事制度の変革に取り組み、それを支える環境を整備する。

これら制度変革は東工大単独の取組で実現できるものではなく、危機感を共有しているであろう他の全ての理工系大学、理工系学部呼びかけ、全国的な拡がりとしてゆく。同時に、文科省を始めとする官公庁、関連会議、経済界などにも働きかけ、全国的な動きの先陣を切る。

1. 女子枠導入における本学の考え方の明確化

ミッションの明確化：D&I推進の一環であること

2. 女子枠の規模感

社会に与えるインパクト、規模感による学修環境が重要

3. 平等性を配慮した設計

他大学の状況、入試方法検討、文科省や専門家との相談、
コアルール設計と学院間の調整

4. 学内外への説明

プレスリリースによる周知、教職員説明、学内学生説明

1. 女子枠入試の概要
2. 女子枠入試導入の経緯
3. 女子枠入試に対する反応と対応

女子枠入試に対する反応

典型的な反対の反応

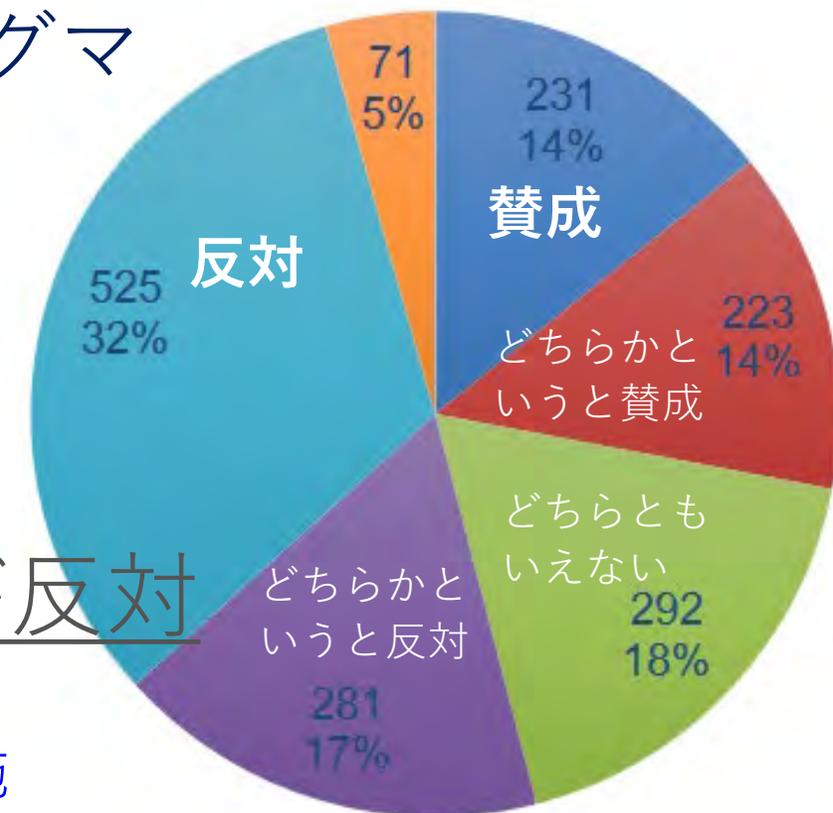
1. 入学者の学力が下がる
2. 男子学生への逆差別である
3. 女子枠で入学した学生に対するステイグマ

Q. 女子学生比率の増加という目的とその方法論を受けて、女子枠を導入するという取り組み全体についてどう思いますか。

(学勢調査2022追加調査, 2022年12月-2023年1月)

回答者1623名 (約14%)

49%が反対



※プレスリリース後、11-12月で学生への説明会 4回実施

● 入学者の学力が下がる

- 評価軸（目的意識、説明力等）が異なる
- 基礎学力が基準に達している志願者が募集人員に満たなければ、合格者は募集人員より少なくする

● 男子学生への逆差別

- 「いま」で捉えるのではなく、過去の歴史を振り返り、実質的に平等になっていない現時点を把握し、将来を考えてほしい
- 一般枠の導入：機会の平等
- 結果として、女子学生増により男子学生も多様性のある環境で学べる

● 女子学生へのスティグマ（劣性の烙印）

- Inclusion推進：アンコンシャスバイアス研修、D&I教育推進

2023年度の女子枠入試に関連する活動

1. 4月 高校生入試説明会
2. 4月 理学院と工学院の総合型選抜に一般枠導入を公表（入試制度の見直し）
3. 7月 高校教員入試説明会（女子枠入試導入の意義の理解）
4. 8月 オープンキャンパスでの入試説明
5. 9月～3月 全教職員へのD&I研修の実施
6. 11月 一日東工大生（関東圏内の女子高校生対象）
7. 11月 保護者入試説明会（女子枠入試導入の意義の理解）
8. 11月 女性活躍応援フォーラム「理工系ライフと将来」（キャリアの共有）
9. 11月～3月 教員との女子枠入試の意見交換ワークショップ 計5回
10. 12月 東京工業大学SOGIガイドライン作成
11. 2月 全教職員に動画配信「女子枠入試導入に伴うご協力のお願い」（受入れ準備）



新食堂つばめテラス



本館リフレッシュスペース



制度・設備等

1. 9月 大隅良典記念奨学金に女子学生枠を創設
2. 9月 すずかけ台キャンパスに保育所開設の事業委託公募実施
3. 10月 女性/外国人に配慮した新食堂「つばめテラス」&多機能女子トイレ
4. 10月 女子トイレに生理用品の提供開始
5. 11月 本館に女性専用のリフレッシュスペースを新設

女子枠入試の総括

過去3年間入学者の男女比

(人・%)

	2024年度 (女子枠:58名)			2023年度			2022年度		
	入学者数	うち女子	女子比率	入学者数	うち女子	女子比率	入学者数	うち女子	女子比率
理学院	155	9	5.8	155	9	5.8	158	16	10.1
工学院	348	29	8.3	352	24	6.8	352	29	8.2
物質理工学院	180	36	20.0	182	23	12.6	185	24	13.0
情報理工学院	133	14	10.5	94	4	4.3	94	2	2.1
生命理工学院	158	45	28.5	156	23	14.7	158	36	22.8
環境・社会理工学院	113	31	27.4	114	26	22.8	110	31	28.2
合計	1,087	164	15.1	1,053	109	10.4	1,057	138	13.1

※前期日程、総合型選抜、推薦型選抜の合計。「入学手続者数」で記載

2025年度入試の状況

- ・女子枠 58名 (56名合格) →149名 (理学院:15名, 工学院:70名, 情報理工学院:+6名)
- ・志願者倍率 4.6倍 →3.8倍 (理学院:4.2倍, 工学院:3.7倍)

⇒詳細な結果は、来年度初めに公表予定

現在の課題

- 大学内のインクルージョン推進・環境整備
- 入学した女子学生のフォローアップ
- 中学校、高校側へのさらなる働きかけ